

人人へのまなざし

～熊野俊一と小林正六～

2015 年

4月4日(土)～5月10日(日)

時 間：9:00～17:00(入館は16:30まで)

入館料：一般 300 円、大学生 150 円

※高校生以下65歳以上の方、障がい者手帳等をお持ちの方は無料

休館日：月曜日(ただし休日の場合はその翌日)

主 催：高松市塩江美術館



熊野俊一《二ノスの海岸通り》1969



熊野俊一《裸像》1979



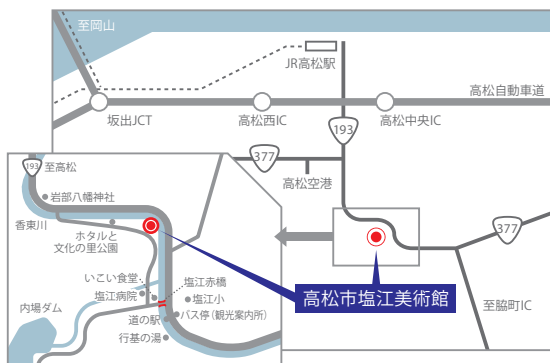
小林正六《牛のいる風景Ⅱ》



小林正六《湖畔》

高松市塩江美術館では、熊野俊一、小林正六の二人展を開催します。熊野俊一は1908(明治41)年、塩江町に生まれました。1928(昭和3)年より3年間、香川県の小学校教諭として働きますが、画家になる夢をかなえるため、1932(昭和7)年に上京します。熊野は戦前、人物を主に描きました。1963(昭和38)年に渡欧し、のちに無所属の画家として、日本とヨーロッパを行き来しながら主に風景画を描くようになりますが、そこに登場する人物はいつも生き生きと描かれています。

小林正六は1917(大正6)年、高松市に生まれました。およそ40年間、教師として小・中学校で美術を教えながら画家の活動をつづけました。小林の作品には子どもを中心に人物が数多く登場します。特に、モチーフにしている子どもたちは気取りがなく、天真爛漫なところにひかれて生涯をとおして描いています。熊野とは、小林が二紀会で初入選した際に出会い、その後交流を深めました。熊野俊一はいつも、最初にスケッチブックに水彩で描き、その後キャンバスに油彩で描きます。本展では、その臨場感あふれる描線で描かれた人体スケッチをはじめ、渡欧先で描いた油彩画と、小林正六の子どもたちへのやさしいまなざしを象徴するように、時間をかけて描きあげられた油彩画をあわせて、約40点紹介します。同じく教師として教育現場に立った二人の画家が、それぞれに想い描いた、人々の姿に注目してお楽しみください。



同時開催

「第1期常設展 風かおる情景」2015年4月25日(土)～7月20日(月・祝)

◎アクセス

【バス】JR高松駅から「ことでんバス塩江線」約60分、塩江バスターミナル下車徒歩10分

【自動車】高松市中央ICまたは高松西ICより約40分

【飛行機】高松空港よりタクシーで約20分

高松市塩江美術館

Shionoe Museum of Art, Takamatsu

〒761-1611 香川県高松市塩江町安原上 602

TEL 087-893-1800 FAX 087-893-1833

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/5041.html>